

# 2011年度 早稲田大学 人間科学部

## 日本史 解答例

### I 原始・古代の住居や建築物 <易>

問1エ 問2イ 問3ウ 問4イ・オ 問5ア 問6ウ  
問7エ 問8ア・カ 問9イ 問10オ 問11イ 問12エ

「該当するものがなければ、カをマークせよ」という消去法が使えない小問が不意打ちで登場するため、一問一問慎重に設問文を読まなければならない。しかし、それさえできれば解けない難問はなかった。問3を難しく感じた人がいるだろうが、大学によっては複数回出題するところもあるほどの用語であるため、入試直前期の講習で紹介していた。

### II 中世の飢饉と戦乱 <標準>

問1オ 問2オ 問3カ 問4エ 問5イ 問6イ  
問7ウ 問8ア 問9ア・エ 問10ア・オ 問11イ 問12オ

問10がやや難しい問題で、問12が難問。問10では、選択肢の6人の人物が基本的に北山文化か東山文化のどちらに属するかを判別できる必要がある。その上で『新撰菟玖波集』と『樵談治要』が作られた背景にいた権力者をとらえていただろうか。そこがおさえてあればなんとか正解できた。文化史分野は、作品名と作者を覚えるだけでは得点につながらない。入試で問われるポイントを逃さず習得しておこう。

### III 江戸時代の産業 <標準>

問1ア 問2カ 問3ウ 問4イ 問5ウ 問6オ  
問7エ・オ 問8ア 問9イ・カ 問10エ 問11オ 問12イ

問3が難問で、問6と問9がやや難問。問1は史料中のいくつかのヒントから導き出せる。「2つ選べ」タイプの正誤問題を苦手と感じている受験生が多いが、問7などは結局4つの誤文を指摘すれば正解が出せる。これなら5つの選択肢から正文を1つ選ばせる問題となんら変わらない。

#### IV 近現代の宗教 <標準>

問1ウ 問2ウ 問3エ 問4カ 問5イ 問6ア・エ

問7イ 問8オ 問9ウ・オ 問10ア 問11イ 問12エ

問2・問4がやや難問で、問10が難問。問12を難しく感じた人がいるだろうが、こうした問題を推測で解ける能力を養いたい。戦後の民主化政策を考えれば、宗教に対して「公的な監督」はむしろ禁じられただろう。また逆にア・ウ・オなどは正文と推測できる。

#### V 情報とメディア <標準>

問1エ 問2イ 問3ウ 問4オ 問5ウ 問6ア 問7イ・エ 問8カ

問9エ 問10ウ・オ 問11イ 問12ア 問13ウ 問14エ・カ 問15イ 問16オ

問7がやや難問で、問15が難問。問11は「別段風説書」を意識した作問の可能性がある。一般に「該当なし」が正解の問題は、答えとなる語句がはっきりとしているものである。その原則で考えると「オランダ風説書」が正解の可能性も高いが、三省堂の教科書には、アヘン戦争後に幕府が「オランダ商館に対して、和蘭風説書よりさらにくわしい別段風説書をあらたに提出させて詳細な海外情報の入手につとめ」たと書かれている。しかも「別段風説書」が太字になっていて、隣には「ペリ一航を予告する和蘭別段風説書」の史料まで大きく載せられている。そして選択肢には「唐船風説書」があるため、「別段風説書」の存在を知らずに出題したとは考えにくい。

##### 【追記】

問11については当初、三省堂の教科書で太字となっている「別段風説書」だろうとして正解を「カ」としたが、その後、この史料の原典にあたったところ「オランダ風説書」が正解と判明したため、お詫びして訂正する。

## 講評

正誤問題が非常に多い本学部だが、合格している受験生は決して何もかもを知っていて正解しているわけではない。いくら受験日本史を極めたとしても、判別に苦しむ選択肢はいくらでも出題される。それでも得点するためには、知識を総動員して選択肢の正誤を推測する力が必要となる。それを養う学習というのは、単純暗記とはかけ離れたものである。